

## J. P. L'Heriteau 氏より聞いた最近の Saclay の話題

菊池 康之 (原研)

前回, "サクレー研究所における核データ評価" と題する筆者の文中において, Saclay のリニアックの閉鎖が問題になっていると書いたが, 最近の情報が入ったのでここに紹介する。

Saclay の評価グループの一員の J. P. L'Heriteau 氏が休暇で9月末から1カ月間日本を訪ねた。そこで原研の原子炉工学部において, 2日間原研に招待して, 核データ研と核設計研主催で2回のセミナーを持った。

核設計研主催のセミナーでは, Saclay 研の評価グループの一般的説明と Cadarache の Harmonie 炉内でのスペクトラム測定が, Cadarache 25群セットの計算と合わない点から,  $U^{238}$  の非弾性散乱のデータに疑問が持たれ, Saclay で再評価したが, 未だに不一致が解決されていないとの報告があった。

核データ研主催のセミナーでは, 上記の  $U^{238}$  の非弾性散乱の他に, Level density の discrete level からの値と, Statistical region の値が一致しない点についての評価作業が行なわれているとの報告があった。

しかし, さらに皆に関心があった Saclay のリニアックの閉鎖と, Michaudon のグループの解散の問題については, リニアックは高速炉プロジェクトの金で1975年まで運転が継続される事が決定し, 辞任した Michaudon の後任としては, Paya が任命されたとの事である。この決定は, Nuclear data production の activity として世界的見地からも朗報であるので, ここに報告する。

なお蛇足であるが, フランスのこれら核実験のグループの場合, 20人の人員がいれば物理屋は4~5人で, 残りは technician であるという。日本の現状からは信じられない話で, 能率が良いのが納得出来る。